

修了生からの  
お便り



# 多くの考えに触れ、学び続けることの大切さを実感した時間 いまの生活の基盤に

「学び続けることの大切さを多くの方から教えていただいた」ことが在学していた期間を振り返って真っ先に思い返されることです。充実した二年間は、現在の教員生活の大きな支えとなっています。

学部を卒業後、講師として教育現場に出ていた私は、教えることの難しさを感じつつ、さらに専門的な技能の未熟さもあり、教えることについて悩みを抱えていました。このまま胸をはって子どもの前に立てるのか、そのような思いが常にある中であつたように思います。技術・家庭科技術分野（以下技術分野）における人的配置は、ほとんどの中学校で一人、もしくは二校を兼務しているという現状です。授業の進め方や題材の選択についても意見交換すらうまくいかないことも多々あります。そんな中、大学院進学之机を与えていただき、現職教員の先生方やストレートマスターの皆さんと同じ立場に立つて毎日のように議論できたことや、大学の先生方から新たな知識を

教えていただけたことは非常に有意義でした。

現任校では『知性と品位をもち、社会を興す人になろう』という教育目標のもと、多様な見方・考え方や立場から物事をとらえ、新たな関係を創っていく子どもの姿の実現を目指し、文部科学省の指定研究に取り組んでいます。技術分野では、自由な発想とそれを具現化するために必要な基礎・基本の技術の習得、社会とのかかわりを大切にするのできる力の育成を目指し、生徒同士の意見の交流によつてどのような考えが練りあげられていくか、授業の在り方を検証しています。子どもたちが達成感に満ちた表情には何といても清々しいものがあります。時には技術室でアイデアを交流しながら、時には畑で作物の生育を確認しながら、時にはコンピュータ室で事象のアルゴリズムに迫りながら、学ぶ価値を実感できる授業を創造していきたいと思えます。



保坂 恵  
(ほさか めぐむ)

新潟県上越市出身。平成19年3月学校教育研究科修了後、新潟県公立中学校勤務を経て、新潟大学教育学部附属長岡中学校へ勤務。技術・家庭科の研究を主とし、現在、新潟県技術・家庭科研究会運営委員としてロボットコンテストの運営に携わる。また、平成24年度には、新潟県代表として妙高市立新井中学校を中部日本地区選抜中学軟式野球大会へ出場に導くなど、校内外で精力的に活動している。

